

## The Tragic Cost of Her Cavernous Thirst

途方もない深い渇きの悲惨な代価

2009年6月21日

ヨハネ4章16～26節

聖書全体において当てはまることですが、特にヨハネの福音書によく当てはまることがあります。私たちが聖書を通して神を知り、それにより自分たちのことをより知るようになることです。ヨハネの福音書のなかでも、特にこの井戸で出会った女性と彼女の生き様の話は、私たちがイエス・キリストを知り、そして自分たちを知るようになる為に書かれています。この箇所は、（先週も言いましたが）私たちにイエスがしたことを真似るように勧めているというよりは、この女性とは違った形であるとは言え、何度も姦淫の罪を犯した私たちを赦し、救ってくださったイエスの偉大さを知る為なのです。

自分自身を知らば知る程、私たちの神の理解と、私たちのイエスへの愛が何故それ程までに小さいかが分かります。私たちがありのままの自分の姿をさらけ出す時に、関節と骨髄の分かれ目さえ刺し通す神のことばにより、私たちは生ける水をこの体に受けることができるのです。サマリアの女性の心はあまりにも固くなってしまったので、イエスが言っていることが分からず、そのままでは生ける水を受けることができなかつたのです。ですからもし、今あなたがありのままの自分を神の前にさらけ出すことができるなら、それはあなたにとって非常に良いことです。その水はあなたの内に入るのを望んでいるのです。罪のために固くなってしまったあなたの心の奥底に深く入り込んで、あなたに満足を与えたいのです。神があなたに知ってもらいたいように神を知り、喜び、その水を受けることができる様になってもらいたいのです。

### いたちごっこ

イエスとこのサマリアの女性の会話の前半は一見「いたちごっこ」に見えますね。少なくともこの女性はあまり意味のない会話にイエスを巻き込もうとしています。ただ違うのは、彼女は（少なくともイエスの目には）「いたち」ではないし、そしてイエスは彼女の作戦にひっかかりはしません。4章の前半では、イエスの違った性質が段階を経て表現されます。

- 1節から15節では、イエスは「生ける水」です。
- 16節から19節では、イエスは「預言者」です。
- 20節から24節では、イエスは真の靈的礼拝を可能にする「救い主」です。
- そして、25節と26節ではイエスは「メシヤ」です。

この段階には目的があるのです。この箇所が語ろうとしているのは、イエスについてであり、サマリアの女性についてであり、あなたについてです。生ける水、預言者、救い主、メシヤとしてのイエスと、罪の中に閉じ込められてしまったあなたとの関係についてです。今日は16節から19節の箇所から預言者であるイエスについて見ることにします。先週は1節から15節を見ましたね。20節から24節は次回に取っておきましょう。

前回は10節で、イエスはこの女性に生ける水を与えようと言われました。彼女はまるで3章に出て来たユダヤ人指導者ニコデモのようでした。イエスが言われることの靈的な意味をまったく理解しないのです。イエスが彼女の霊に与える水の話をしているのに、彼女は恐らく自分に霊があることすら知らなかったことでしょう。心は渇ききり、霊は死んだも同然の状態、精神的には盲目なのです。だから、彼女の反応は「あなたにはバケツ（桶）がありません」「私がもう井戸に水を汲みに来ないでもいいようにしてください」なのです。イエスとは違う次元で話をしているのです。

ところが16節で衝撃的な展開が起こります。一見、それまでの会話とはまったく無関係な方向に話が行ったと思われまます。

イエスは彼女に言われます。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」一体全体何を考えて、イエスはこの質問をしたのでしょうか？ 彼女は「私には夫はありません。」と答えます。預言者であるイエスはこう言います。「あなたが『私には夫はありません。』と言うのはもっともです。あなたには5人の夫がいましたが、今いっしょにいるのはあなたの夫ではないからです。あなたが言ったことは正しいです。」そして彼女はイエスに向かって言います。「先生、あなたは預言者だと思います。」（16節から19節）

### 違う角度から話を進める

1節から15節で「生ける水」と表現されているイエスから、16節から19節では「預言者」に変わります。少なくともこの時点で、彼女はそう思うことが目の前で起こった現実を説明するのに適切だと思ったのです。「生ける水」に関して、彼女は理解を示しませんでした。イエスが何を言わんとしているか彼女は少しも分からないけれども、イエスは説明を続けずに話題を変えます。この先イエスは「水」に関しては一切何も述べません。イエスは自分を預言者として次の話題に移ります。誰もが知っている彼女の過去だけではなく、彼女が隠している秘密まで知っているのです。だから、彼女に夫に関しての事を言うのです。今日は主に、何故イエスはもっと時間を費やして「生ける水」のことを彼女に理解させようとせずに「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」と言われたのかという質問に答えることにします。一体全体なにゆえにイエスは話の角度を変え、この質問をしたのでしょうか。生ける水の話から、彼女の夫です。しかもイエスは彼女に夫がいないことはご存知なのです。

私は16節から19節を読んで、この質問をした意図に関するヒントがないか探しました。イエスが何を考えていたか、この女性に対して何をしようとしているのかを探したのです。4つを見つけました。もちろんこれは私の個人的な見解かもしれないので、的外れかもしれませんが、みなさんにお教えたいと思います。

#### 1) 「ここ」 'here'

15節と16節に2回「ここhere」という単語が出てきます。15節の「ここに水を汲みに来なくてもいいようにその水を下さい」というところと、16節の「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」の2カ所です。英語や日本語ではあまりにも平凡な単語ですよね。特別なことはない様に見えます。ただし、ギリシャ語では、ここで使われている単語 *enthade* は聖書のなかでヨハネのここだけ、つまりたった2回しか使われないのです。どうしてなのでしょう？ひょっとして、イエスはこの女性の「毎日ここに来たくないのです」という発言の裏にある、ただ単なる面倒くささや不便さ以上の思いを見抜いたのではないのでしょうか？「私は毎日この公共の場所にこんな風にして来たくないの。もし避けられるのだったらとても嬉しいわ。」という彼女の心の声を聞き取ったのではないのでしょうか？毎日井戸に来るのがつらいのでしょうか？重い水を運ぶのが嫌なのではないのでしょうか？違うと思います。すべての女性が同じことをしているのです。でも、他の女性達が夕方近くに水を汲みに来るのを避けて、真っ昼間に井戸に来るのは、他の女性達の話題的にはなりたくなかったのです。彼女には5人の夫がいました。そして今は夫でない男と同棲中です。井戸に集まる女性達の格好の話題のネタですね。イエスは、何としてでもゴシップのネタになるのを避けたい彼女のそんな心の内を知っていました。「ここに来たくないのだね。ここだと一目につくし、弱い立

場であると感じるのだろう。だったら、夫を連れて来ればいいのでは？あなたの側に立ち、町の門を守る長老の用に、すべての害からあなたを守ってくれるだろうに。」

4つのヒントの一つ目は、イエスが彼女の使った「ここ」という単語に目を留めたということでした

## 2) すでにご存知であられた

劇的な話題の転換（「水」から「夫」へ）の理由を理解する2番目のヒントは、イエスはすでにこの女性に5人の夫がいて、今住んでいるのはボーイフレンドであるということを知っていることです。ここは重要なポイントですので覚えておいてください。つまり、イエスは故意に彼女の罪を示しています。でも、それを井戸に集まる他の人ではなく、彼女にだけその罪を示しています。わざと神経に触るようなことをしたのです。彼女の核心に触れ、人生の隠された場所にある問題に彼女自身の目が向くようにします。この時点では、まだイエスの与える生ける水は彼女の心の奥には届いていません。これは私たちが口から飲む水とは違って心で飲まなければならないからです。この女性は表面的にだけ生きていました。イエスを心の奥底に入れただけではなく、心をかたく閉じてしまっているのです、おそらく自分自身もそこに入れられないような状態だったのでしょうか。内面的に死んだのも同然だったこの女性には、そこに入る事のできる水が存在することすら想像ができなかったでしょう。そこにイエスが入り込みます。私たちに対しても同じ事をされます。イエスは外面的な関係など望んでいないのです。この方は、あなたの表面の壁を押し抜け、偽善者の仮面を剥がし、隠された神経すべてに触るまで入り込みます。この方はあなたのすべてを知っているのです！

## つらすぎて汚れすぎている

ヨハネ3：20では「悪を行うものはすべて光を嫌い、行いが明るみに出ることを恐れて光のもとには来ない。」生ける水を心に受けるのを拒絶するのは、彼女が隠そうとしている罪を表面に出すようなことすべてに対し、精神的に自分自身を閉ざしてしまったからです。それはつらくて汚れすぎているからです。

イエスは、生ける水が彼女の精神面や内面に対してどんな深い意味があるかということに対して、彼女が盲目的にかたくなになっている理由は、性的な罪の関係を何年も続けてしまったことから来ているということを知っていました。それでイエスは彼女の内面まで入り込もうとしているのです。神はこの女性を霊と真の礼拝者としたいのです。みなさんの周りに5回離婚している人がいますか？その人を軽蔑し、見捨てますか？決してそんなことをしないでください。イエスは見捨てられませんでした。この女性は精神的に死んだのも同然、心はかたくなで、霊的には盲目です。私たちもそうなのです。でもイエスはそれをよくご存知なのです。すべて知っておられるのです。そして、この方には外面的な事柄には目を留められないのです。必ずあなたの内面に入ってきます。

## (余談) スモールグループが必要な理由

（愛する兄弟姉妹の皆さん、少し話が外れますが、これが教会のスモールグループの兄弟姉妹の役割です。私は説教をします。そして神は深い憐れみを持って、時には説教を通し、み言葉を使って関節と骨髄の間を刺し通し人々の心に触れられ、救い、癒すこともあります。ですが、教会は説教を聞くだけの場所ではないのです。人々がもっと親しい交わりをして、お互いの将来を考えた話をしあわなければならないのです。イエスの「行って、夫を連れて来なさい。」のようにね。私にはこの教壇を降りて、ここにいる全員にそのような質問をす

ることは出来ないのです。そして、私がここから「生ける水」の話をいくらしても、それが人々の心に届かない場合があるのです。そのような時に、もし誰もある人の人生を揺るがすような決定的な質問を投げかけず、その人はそのまま家に帰ってしまったとします。そうしたら、その人の上に注がれた生ける水はまったく無駄になってしまうのです。スモールグループの中で、親しい交わりの中で初めて、説教を通してだけでは届かない、人々の心の奥底まで揺るがすような、聖霊の力と賜物と知恵を探し出すことが出来るのです。教会とはそうあるべき場所なのです。みなさんをお願いします。どうか、この教会を「説教」だけの場所にしないで下さい。ここは、一つの教会に落ち着かず、次々に教会を変える人達を接待する所ではないのです。聖徒達が集まり、イエスが求めるような、愛し合い、慰め合い、教えられるみ言葉を深く心に刻み、どんな過去を持つ人（たとえ5回の離婚経験があろうが）でも受け入れ、お互いを守り合うような教会でありたいのです。お願いします。私たちも出来る限りの事をするので、皆さんも「親しい交わり」の中で生きてください。ここでスモールグループに関する余談を終わりにします。）

2番目のヒントは、イエスは彼女の隠された罪をすでに知っていて、それを表面にだそうとされたということでした。

### 3) 彼女の「心の渇き」を彼女自身に知らせる

イエスが「生ける水」から「夫を連れて来なさい」と話題を変えた理由を理解するための3つ目のヒントは、この「夫」に関して徹底的に最後まで追求しないことにあります。17節18節でイエスは彼女の夫に関する過去の罪を暴きますね。「あなたに夫がいないというのはもっともです。あなたには5人の夫がいたが、今住んでいるのはあなたの夫ではないからです。」それに対する彼女の反応は「先生、あなたは預言者だと思います。（19節）」です。そのあと、なんと彼女は「預言者」や「夫」の話題から「礼拝」に話を移します。そして、この後二度と話題は「夫」にも「姦淫の罪」にも戻りません。もうこの話題は終わったのです。私は、これは非常に意味深いと思います。イエスにはこの話題に終止符を打つつもりはなかったのです。よく理解して下さい。イエスは、詳細も聞かない、非難もしない、はっきりと罪を認めさせずらしいのです。話を持ち出しました。神経を逆撫でするようなことを言いました。そこで彼女は話題をさっと変え、イエスは彼女に話を合わせます。なぜ合わせたのでしょうか？どうしてもっと話の白黒をはっきりさせなかったのでしょうか？何故イエスは彼女に話を合わせたか、ということに関しては、来週話をします。イエスがこの「夫」の話題を持ち出した理由は、恐らく彼女自信も気がつかない、心の渇きを彼女に知らせるためだと思います。

### 心の中の海綿状の空洞

イエスは彼女に生ける水を提供しました。彼女はそれを、柔らかい、生き生きとした、触れることのできる、感情が出せて、涙を流せて、受け入れることの出来る心と、信仰を持って飲む事が出来るのです。でも彼女の心は、閉じ込められて、死んだのも同然の状態でした。この水は体ではなく、魂のためなのです。イエスは彼女にこの生ける水を心で受け取ってもらいたかったので、彼女の心の渇きを彼女自身にさらしました。

この地上に、5回の結婚と6人の男性との肉体関係を持った女性で、異常な心の渇きを感じていない方はいません。女性は数多くの男性とのセックスで心を満たせるように創造されていないのです。男性の中にはそれ（複数の女性との肉体関係）で満足しているように「感じ」ている人はいるかもしれませんが、女性は満足していると感じることすらできないのです。つまり、このサマリアの女性は、きっと渇きと切望で心が海

綿体のように穴だらけになっていたでしょう。彼女が求めているものが男性のうちに見つからないので（男性こそ彼女の心の渇きを満たせると信じている）次から次へと男を変えているのか、男性の方が彼女に求めているものを見つけられないので、いつも最終的には捨てられてしまうのか、それとも両方か。いずれにしても、彼女の中には深い傷と空虚と罪悪感だけが残り、それがあまりにもつらく、治癒不可能に思われるので、もう傷つかないように、心を固く閉ざしてしまうのです。この時点では彼女の心には入り口がありません。暗闇に閉ざされてしまっているのです。イエスはそれが分かったので、この女性の内なる闇にあえて入り込もうとするのです。「本当の満たしを知ってほしい。あなたの心は渇いている。心の目を覚まして！男性の愛やロマンスや肉体的な抱擁や社会的安全などではない、この私が解決法、心の渇きを癒す生ける水。セックスではない、もっと深い本当の関係を持ってほしい。わたしこそが生ける水、救世主、メシア、預言者。あなたの魂は（そしてここに集まるあなたがたの魂は）わたしイエスから深い満足感を得る事ができる。」

多くの人が同じ状況にいます。あなたにとって、それはセックスではないかもしれない。（もちろん、肉体関係が問題な人も沢山います。）それが何にしても、あなたがそれらから深い満足感を得るのは一瞬です。そして、同じ満足度を得るのは徐々に難しくなってしまいます。

### イエスについてそして私たち自身を知る

今ここで、イエスに関して学んでいますね、そして自分たちについてもです。イエスは憐れみ深く、積極的で、心の外科医のようで、しつこい程に愛情的ですね。あなたのすべての過去と現在を知っておられます。自分を知ってもらえるって嬉しくありませんか？非常につらく痛いこともあります、自分を知っている人がいるとは素晴らしいことです。とくに、このイエスにはです。この方に隠せることなどないのです。あなた自身も忘れていた若い頃の秘密ですら知っているのです。経済的問題、感情、真夜中にあなたがしていること、すべてです。この世界でたったお一人だけ、あなたを完全に理解しているのです。まさに、預言者、いえ、預言者よりも優るお方です。それは来週語ることにします。

あなたは自分を良くご存知ですか？この女性とあなた自身を重ねる事ができますか？私たちがイエスの与える生ける水を十分に飲んでいない理由は、ただ単にあなたがイエスを信じていないのでその水を味わった事が無いだけということかもしれないし、ひょっとして、クリスチャンでありながら何かが起こり、偽物の泉に心を惹かれ、そこから水を飲み始めてしまったのかもしれないですね。何らかの理由で心を閉ざしてしまったということも考えられます。いずれにしても、人がイエスの深い泉から湧き出る「生ける水」を飲んでいないという証拠は、ヨハネ4章に出てくるサマリアの女性のように、常に次から次へと心の空間を満たしてくれる「何か」を探し続けていることです。

### 人生の変動：信仰か欲求不満か

肉体関係、友情、人間関係、インターネット、仕事、教会、趣味、ゲーム、髪型、ファッション、車、住む場所...等々形は様々ですが、そのようなものの中からいくら探しても心の海綿状の空虚を埋めることはできません。なぜ何故なら、心の深い真実の満足を与えるのは、イエスキリストと一体になることによる与えられる泉から湧き出る「生ける水」だけなのです。毎朝起きたときに、心が痛いくらいにこの水を求め、泉から湧き出るいのちの水で心を満足させるなら、もう次から次へと一時的な快樂しか与えない、この世のものを探し続けなくていいのです。

イエスで心を満たしているクリスチャンに出会う時、励まされませんか？その人達は、本物の「水」がどこにあるか知っているのだから、あちこち探しまわることなどしません。彼らはその水の所にとどまり、その水で日々生きているのです。

「では、クリスチャンの生き方は、一カ所に留まって生きなければならない、つまらない人生だ」と思いますか？とんでもない。私は、真実の泉のもとで、イエスとの友情を楽しみ、日々深く満足しているクリスチャンライフが「静止」しているなんて決して言いません。

信仰による確信をもった行動と、欲求不満からくる渴望的な行動には違いがあるのです。後者は、満ち足りて、揺るぎない、キリストにある本当の自分の性質を知らないことからくる、落ち着きの無い行動です。前者は、キリストといういのちの泉を持っているので、目的に満ちていて、いのちの水が与える力と創造に溢れた行動です。欲求不満から次から次へと仕事や伴侶や町を変えて動きまわると、信仰から来る目的に満ちて動くのは同じではありません。どこにいのちの泉があるかを知った上で、満たしてくださる方を心の中心に置いた状態で、示されるままに目的と信仰と計画を持って、中国やウクライナや東南アジアやあらゆる国々に行くのとはまったく違うのです。後者には、イエスキリストが共に行かれます。イエスは地理的なことに影響される方ではないので、あなたがいのちの水を持っている限り、共にどこまでも行かれます。だから、私が「クリスチャンは落ち着いて、一カ所の留まるべきだ」なんて言ったと思わないでください。イエスキリストは、あなたが世界の果てまで行くように命じ、そのためにあなたの背中を押します。

このサマリアの女性の話は、私たちの為に書かれたのです。イエスこそが栄光ある満たし主、生ける水、預言者、救い主、メシアであることと同時に、私たちの願望、追求、渴望、満たされることを思う私たちの心が書かれています。それが3つ目のヒントでした。

#### 4) イエスの皮肉

「水」から「夫」に話題を変えた目的を知る4つ目、最終ヒントです。皆さんは、イエスが一度だけではなく二度もこの女性に彼女が言った事はあっていると聞いたことに気がつきましたか？私はこの事実に驚いたのです。17節では夫がいないということに対して、18節では今一緒にいる男性は夫ではないということに対してです。

初め、これは非常に奇妙だと思いました。イエスは一体何をしているのだろう、とね。

私だったら、イエスのようには答えません。「『夫がいない』だって？嘘をつくなよ。5人いただろ？騙そうってその手には乗らないよ」と言うと思います。実際、彼女はイエスを騙そうとしているではありませんか。ところがイエスはそうは言いませんでした。「あなたに夫がいないというのはもっともです。（直訳「あなたは正しく答えました」）」さらに続いて「あなたには5人の夫がいましたが、今一緒にいるのはあなたの夫ではないからです。あなたが言った事は真実です。」と言います。

奇妙ではないですか？初めと終わりに彼女を誉めています、その間で、彼女のごまかしを暴いています。彼女はおそらく「今度こそこの男をだませるかしら？」と思っているのかもしれない。彼女はここで、事実を使って嘘をつこうとしています。彼女は嘘つきです。ここに書かれていることは、秘密の罪という名のコインの裏側に非常によく見られるものです。つまり、ごまかし、巧妙、言葉の巧みな使い方などで、事実を用いて事実を隠すのです。ごまかしをする人は得てしてはつきりと「嘘」をつきません。危険すぎるからです。真実を使って人を騙すのです。

## 現在社会のごまかし

今日ではこれは信じがたいくらい一般的になっています。自分をごまかしをしていることを知っている人もいれば、それが当たり前の社会と同調してしまい、自分をごまかしをしていることに気がつかない人もいます。「誠実」やら「品位」ある言葉使い（第二コリント2：17、4：2）が存在することすら知らない人達もいるかも知れません。ゲームや政治やその他ありとあらゆるものに影響されて、言葉はもはや「ゲーム」になっているのです。そして、それを自分が隠そうとしている事実を隠すために使い、相手に伝えようとしている嘘をつくために用います。イエスがここで言わんとしているのは、深い安心と満足とイエスとの聖い関係から来る生ける水にある魂の安らぎを持たない人々は、言葉（それが例え事実の言葉でも）を用いて真実に曇りをかけるような言語を巧みに使えるようになりやすいのです。私自身も何度も使いましたし、人が使うのも聞きました。答えにくい質問を投げかけられた時、答えたくない時に、はっきりと「知らない」と言ったり正直に真実を語らないで、なんとなく適当な言葉を使い、ごまかしてしまうのです。うまくごまかせる時もあるし、そうでない時もあります。

## 罪が心と精神にもたらす影響

イエスはこの女性に彼女の深い心の海綿状のような渇き（そして、彼女はそれを男で満たそうとしていること）を知らせようとしているだけではありません。彼女自身からすらも隠そうとしている真実を隠すために、この女性が長い年月をかけて築き上げてしまった巧みな技を知らせようとしているのです。自分に心の渇きがあるなんて、この女性は知らないのかもしれない。問題は男性にあると思っているのかもしれない。

実に、この巧みな言葉使いこそが、この女性とイエスの次の話題に移る理由になる訳ですが、それは来週のために取っておきましょう。でも、今日はその話題転換のところまで見ることにします。何故なら、ここでは引き続き、罪が心と精神にもたらす影響と、イエスの知恵と思いやりと執拗さが描かれているからです。

19節と20節で、彼女はこのように話題を変えます。「先生。あなたは預言者だと思います。私たちの先祖は山で礼拝をしましたが、あなたがた（つまり、ユダヤ人。複数形）はエルサレムが礼拝するべき場所だと言います。」

## 墓穴を掘る

動物は時に、罠から逃れるために自分の足を噛み切りますね。罠にはまってしまって、今にもその罪を暴かれるという罪人は、逃れるためにめちゃくちゃな論理を使います。「イエス様、私の姦淫と不道德に関してですが、私たちはどこで礼拝したら良いのでしょうか？山ですか、エルサレムですか？」

皆さんは今までに誰かにイエスキリストのことを説明しようとしたことがありますか？イエスが罪人の為に死なれ、よみがえり、赦しと和解を下されたことを伝えようとしているのに、「同性愛者はどうなの？福音を聞く機会が無かった人達は？この国をコントロールしたい極度の右翼のグループは？」などと聞かれたことはありませんか？あなたが、その人の人生の根本の救いの話をして、イエスがそのいのちを捨ててまで私たちを救おうとした美しい真実を語ろうとしているときに、心の真髄について伝えようとしているときに話をそらされるのです。

驚くべきことに、イエスはここで「話題を変えないでください。今はあなたの姦淫について話しているのです。」とは言わなかった事です。さらに驚くべきことは、話題こそは変りましたが、話の方向性に関してはイエスが主導権を握っているのです。

### 彼女の話、イエスの内容

巧みではありませんでしたが、彼女は話題を変えるのに成功しました。一時的ではありますがね。彼女の不道德な生活の話から、礼拝の話に移りましたね。イエスはこの後二度と彼女の夫の話には戻りません。彼女に話を合わせました（少なくとも合わせたように見えます。）彼女が持っていこうとした話題は「どこで礼拝するか」でした。またしても外面的な質問です。内面が死んだも同然のこの女性は、内面的な話が出来ないし、わからないのです。理解できるのは表面的な問題だけなのです。「どこで礼拝する」かって？それがあたかも重要なことでもあるように彼女は聞きます。彼女が話題をそらそうとして使った質問は、地理的なものでした。イエスはそんな形だけの話題には乗りません。イエスが相手ではいちごっこにはならないのです。確かにイエスは彼女の選んだ話題を用います。ただ、彼女の問題はイエスには問題ではないのです。「礼拝について、話したいのですか。では真の礼拝について話しましょう。」とでも言わんばかりではありませんか。「女の人、私を信じなさい。礼拝するのは山でもエルサレムでもないという時が来ているのです。」つまり、イエスが言おうとしているのは、今は歴史の分岐点なので、礼拝する場所など問題ではないのです。23節を読んでください。「もうその時が来ています。（わたしがここにいるからです！）真の礼拝者が真理と御霊により父を礼拝するときです。」重要なのは、あの山やこの山ということではなく、真理と御霊なのです。「あなたに必要なのは、生きた霊と、真実の愛に満たされた心です。」ここのところは、来週詳しく説明します。

### イエスは彼女を、そしてあなたを見放さない

今日、主に預言者（以上の方であるイエス）の突き刺すような言葉から学んだのは、この女性がイエスが与えようとしている生ける水を理解することが出来ないのは、自分の魂の内のイエスに対する海綿状の渇きを彼女自身が知らないからでした。この女性はその心の空洞を埋めるために必死になり次から次へと男性を変え、そうしているうちに彼女の本当の必要、つまり生ける水であるイエスの必要に対して盲目になってしまったのでした。

イエスはこの女性を見放しません。固い心の壁を壊して彼女が本当の彼女自身でいられる為のいのちと光を与えるつもりです。あなたに対しても同じ事をしています。イエスはみ言葉と霊を用いて、あなた自身の必要が見えるように、あなたの目を開いてくださいましたか？生ける水を飲むことからあなたを遠ざけている、依存的な「代用品」に気がついていませんか？

ヨハネの黙示録 22：17は語ります。「渇いているものはわたしのもとに来なさい。それを求める者は、代価を払わずに受けなさい。」

(翻訳：愛咲えみ)